

【家庭の状況】

- ・夫婦共働きの世帯が就学前の子どもの保護者では全体の 43.7%、小学生の保護者では 59%を占めている。
- ・ひとり親世帯は就学前の子どもの保護者が 4.2%、小学生の保護者 15.8%となっている。
- ・フルタイムの父親の帰宅時間は「19 時以降」が、就学前の保護者の場合は 65.4%、小学生の保護者の場合は 54.4%を占めている。
- ・前回調査と比較して、就学前の子どもの母親も小学生の母親も就労している方が増えており、就学前の母親に関しては育児休暇をとる人も増えている。

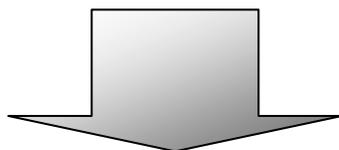


- 共働きの世帯が約半数を占めており、働きながら子育てができる体制を整えることが求められている。
- ひとり親家庭の増加によりそのサポートや子育て支援、地域ぐるみの子育てが求められる。
- 母親の就労が増え、父の帰宅時間も 19 時以降が多い中で、安心して子育てできる環境を整える必要がある。



【教育・保育事業—就学前の子どもの保護者】

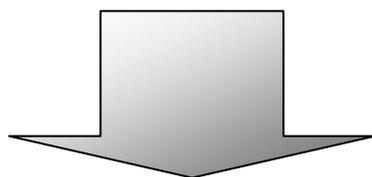
- ・定期的に幼稚園・保育所を利用している理由は子どもの教育や発達のためが71.6%。次いで子育てをしている方が現在就労しているが58.9%となっている
- ・定期的な教育・保育事業の利用を考える子どもの年齢は「3歳」が最も高く(40.0%)次いで「1歳」(24.0%)となっている。
- ・91.8%の保護者が吉野町で幼稚園・保育所等を利用したいと考えている。
- ・長期休暇中の幼稚園の利用希望について期間中、週に数日利用したいが最も高くなっている。(61.5%)
- ・病気やけがで幼稚園保育所を利用できない時の対処法として「母親が休んだが」最も高くなっている。(55.1%)
- ・父親又は母親が休んだと回答した保護者の病児・病後児保育施設の利用希望については利用したい、利用したくないが同数で47.5%となっている。



- 通常の保育に加え、教育や発達の為に利用するなど、保護者のニーズが増え続けている。
- 幼稚園に入園できる年齢に加え、1歳から保育所等を利用する人が全体の約4分の1になることから、乳幼児期の教育体制の整備も求められている。
- 大半が町内で幼稚園・保育所を利用したいと考えておられるため、利便性等のニーズに応えなければならない。
- 病児・病後児保育施設については利用したい半面、他人に子どもを預ける事への不安がみられる。

【就学前児童の小学校就学後の放課後の過ごし方】

- ・平成 26 年度入学予定児童の放課後の過ごし方について、低学年の間の学童保育所の利用希望は 50.0%、高学年になると 39.3%となっている。
- ・学童保育所の利用希望時間は就学前児童・小学生の保護者ともに 18 時までが最も高い。
- ・土曜日の学童保育所の利用希望については、就学前児童が 25%、小学生が 52.9%となっている。
- ・日曜日・祝日の学童保育所の利用希望については、就学前児童が 0%、小学生が 23.5%となっている。



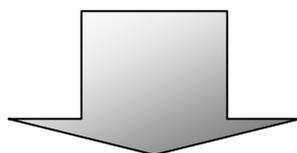
○新一年生の学童保育所利用希望をみると2人に1人が利用を希望しており、高学年になっても利用したいと考えているため、設備、指導員の数等子どもが安心して過ごせる居場所が求められている。

○土曜日の利用希望については子どもの年齢が上がるにつれて希望が増えている。理由としては、母親が就労する（就労したい）時期と比例している。



【育児休業などの職場の両立支援制度】

- ・ 母親の育児休業の取得状況は就学前児童の母親が 15.4%、小学生の母親が 10.6%となっている。
- ・ 母親の育児休業を取得していない人の状況は就学前児童の母親が 21.7%、小学生の母親が 9.1%となっている。
- ・ 育児休暇を取得していない理由は就学前児童の母親が、「子育てや家事に専念するために退職した」が最も高い。(58.1%) 小学生の母親「職場に育児休暇をとりにくい雰囲気があった」と「仕事が忙しかった」が最も高い(25.0%)



- 育児休暇については職場の雰囲気を含めまわりの環境の整備、子どもを安心して預けられる体制づくりが求められている。
- 女性の自己実現のため、また、働きたい意欲を尊重するためにも周りのサポートが必要である。

【子育てのイメージ・子育ての不安や悩み】

・子育てについては、「子育てを楽しんでいるか不安や負担も同じくらい感じる」が最も高くなっている。

・子育てに関して、悩んでいる、気になることについては下記の通り

《就学前児童》自分の時間がとれず、自由が無い（42.4%）近所に子どもの遊び友達がいない（41.0%）子どもに関する犯罪や事故が心配である（39.6%）

《小学生》子どもに関する犯罪や事故が心配である（39.6%）子どもの教育やいじめが心配である（34.5%）子どもの健康性格や癖などについて心配である（33.1%）

・子育てする上でしてほしいサポート

《就学前児童》電車やバスなど交通機関や飲食店などで、子どもを連れていることを理解してほしい（39.6%）子どもの問題行動や子どもが迷惑行為をした場合は遠慮なく教えてほしい（37.5%）屋外で子どもがひとりのときに、危ないか少し気にかけて欲しい（31.9%）

《小学生》子どもの問題行動や子どもが迷惑行為をした場合は、遠慮なく教えて欲しい（48.9%）子どもの病気など緊急に仕事を休むことを理解して欲しい（26.6%）屋外で子どもがひとりの時に、危ないか少し気にかけて欲しい（23.0%）

・子育て支援に有効な施設やサービスについては下記の通り

《就学前児童》妊娠・出産、乳幼児健診などを支える保健医療体制の整備（37.4%）児童手当などの給付や利用料金減免などの経済的援助（32.6%）確かな学力、豊かな人間性、体力を育成する教育環境の整備（24.6%）

《小学生》児童手当などの給付や利用料金減免などの経済的援助（41.0%）確かな学力、豊かな人間性、体力を育成する教育環境の整備（27.3%）子育ての不安や悩み・いじめや児童虐待防止のための相談支援体制（23.7%）

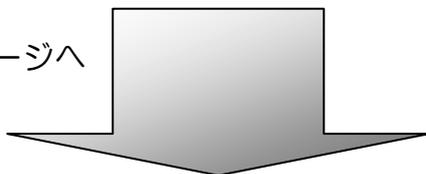
・自宅周辺は子育てに適しているかについて、就学前児童の保護者の31.3%、小学生の保護者の43.9%がどちらかといえば適していない（適していない）と回答している。

・子どもの外出の際に困ることについては下記の通り

《就学前児童》公園や身近に遊べる広場など、安心して遊べる場所が少ないこと（80.6%）歩道が少なく道幅が狭いこと（54.2%）オムツの交換や親子での利用に配慮されているトイレが少ないこと（44.4%）

《小学生》公園や身近に遊べる広場など、安心して遊べる場所が少ないこと（71.9%）暗い道や見通しのきかない所が多いこと（51.1%）歩道が少なく道幅が狭いこと（48.2%）

※次のページへ



- 就学前児童の保護者は自身の自由がない、子どもの遊び友達がいないといった悩みが多く、保護者同士の繋がりや、リフレッシュの機会が求められている。
- 小学生の保護者については、子どもの成長につれての悩み（いじめや子どもの癖など）が多くみられ相談できる体制が求められている。
- 子育てに対する不安や負担を軽減する施策が求められている。
- 犯罪や事故に対する不安が多く地域が連携して子どもを見守る体制が求められている。
- 子育てをする上での周りのサポート、屋外での見守り体制、問題行動や迷惑行為を教えて欲しいなど周囲が支え、子どもを見守ることが求められている。
- 医療保険、各種助成制度の充実などの経済的援助が求められている。
- 自宅周辺環境についてどの世代にも安心して子どもが遊べる場所の整備が求められている。